

平成20年度

福井市P T A研究大会 報告書

福井市P T A連合会

はじめに

今年度、福井市PTA連合会の活動報告会とも言える、平成20年度福井市PTA研究大会が12月13日（土）午後1時から福井県生活学習館（ユー・アイふくい）多目的ホールで開催されました。

今年度のテーマは『つながり』です。家庭・学校・地域の連携の原点には、それぞれの信頼関係に基づいたつながりがあります。広い視野で子どもたちを護り育む大人としての連携を深めるために、相互の信頼関係を築いていくことが大切になっています。

子どもたちの安心安全な生活環境を保障する活動、子どもたちが地域の取り組みに参加することを促進する活動、子どもたちの学習環境を向上させる活動、会員に必要な情報をタイムリーに発信する活動、組織の見直しをする活動などを今年度重点的に行ってまいりました。それぞれの委員会活動を、全体会・パネル展示を通してご報告できたのではないかと思います。

研究大会終了後には、次年度の組織編制について臨時総会を開き、効率的でスムーズな活動に向けての規約改正を皆様のご了解を得てご承認いただきました。

最後になりましたが、研究大会開催に当たり、ご出席頂きました来賓の皆様はじめ関係各位には多大なるご尽力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。今後とも、福井市PTA連合会の活動に、一層のご理解とご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。また、担当委員会としてご支援頂きました大会実行委員会の皆様には、諸準備・打合せ等ご苦勞頂きましたこと、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成21年1月

福井市PTA連合会

会長 大島良雄

平成20年度 福井市PTA研究大会 要項

テーマ 「つながり」

1 趣 旨

家庭・学校・地域の連携の原点には、親子のつながり・親同士のつながり・親と先生方のつながりがあります。つながり＝信頼関係といえるかもしれません。親として、教育者・指導者として、広い視野で子どもたちを護り育む大人としての連携を深め、信頼関係を築いていく事が大切です。

今年度福井市PTA連合会では、各委員会活動を通じて、子どもたちの安心安全な生活環境を保障する活動、子ども達が地域の取り組みに参加する事を促進する活動、子どもたちの学習環境を向上させる活動、会員に必要な情報をタイムリーに発信する活動、そして結成60年の活動を振り返り組織の見直しをする活動を行ってまいりました。この研究大会では、その活動内容を報告し、反省を踏まえて新たな問題提起をするものです。

2 期 日 平成20年12月13日(土) 午後1時～ 受付開始

3 会 場 福井県生活学習館(ユ一・アイふくい) 多目的ホール
福井市下六条町14-1 TEL: 41-4200

4 主 催 福井市PTA連合会
共 催 福井市教育委員会

5 参 加 者 単位PTA会長・役員、市P連常任理事及び理事 他(約350名)

6 日 程 (受 付) 13:00～13:30

☆開会行事 13:30～13:50

・開会のことば

・市民憲章唱和

・主催者挨拶 福井市PTA連合会 会 長 大島 良雄

・来賓挨拶 福井市教育委員会 教育長 渡辺 本爾 様

福井県PTA連合会 会 長 木村 正俊 様

・来賓紹介

・日程説明

☆全体会 13:50～15:20

【地域教育委員会】 (13:50～14:10)

中学生の地域参加についての取組事例発表・提言

- ・灯明寺中、明倫中、進明中の実践活動を視察して
- ・活発な取り組みをしている中学校PTAの現状

~~~~~ 休憩 ~~~~~ (10分間)

【学校教育委員会】 (14:20～15:20)

少人数学級について

- ・アンケート結果報告
- ・少人数学級の現状、メリット・デメリット、今後の展望など
- ・意見交換会

〈発言者〉福井市足羽第一中学校 校長 辻 清貴 氏  
福井市教育委員会学校教育課 指導主事 道上賢一 氏  
福井県教育庁義務教育課 主任 前田洋一 氏  
福井市PTA連合会 会長 大島良雄  
福井市PTA連合会 副会長 海道洋子

☆会場パネル展示

【家庭教育委員会】 食育シンポジウムに関する取り組み

食の安全につながる農薬についての研修結果

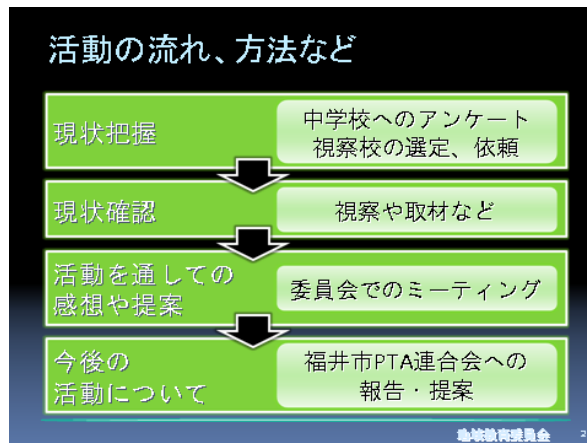
【広報委員会】 市P連ホームページ



活動テーマ「中学生の地域とのまじわり」

活動テーマ  
**中学生の地域とのまじわり**

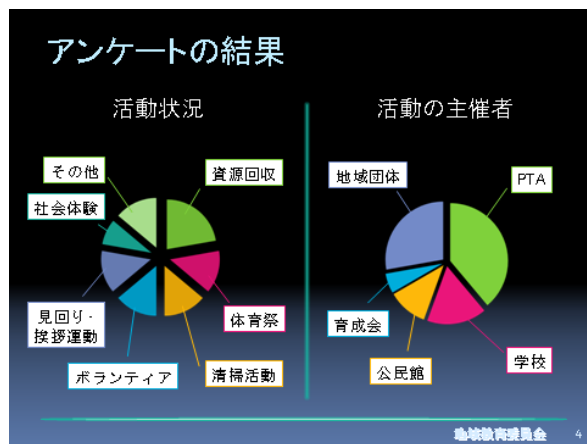
福井市PTA連合会  
地域教育委員会



アンケートについて

- ・ 質問の方法により回答が異なってくる
- ・ 最初からこうなるであろうと回答を予測しての質問は避ける
- ・ 回答を行やすい形に考慮する

福井市内の中学校へのアンケート  
実施数：23校  
回答数：20校



視察校 と 活動内容

灯明寺中学校  
サイクリング活動へのボランティア

視察校 と 活動内容

明倫中学校  
PTA講演会

## 視察校 と 活動内容

進明中学校

美術部による自立支援活動への協力



地味教育委員会 7

灯明寺中学校

サイクリング活動へのボランティア



地味教育委員会 8

鳴瀬堰堤です  
想像以上にデカイ！



地味教育委員会 9

明倫中学校 PTA講演会



体育館の中で

地味教育委員会 10

進明中学校

美術部による自立支援活動への協力



地味教育委員会 11

イチゴ苗について説明を受けます



地味教育委員会 12

## 取材校 と 活動内容

粟 幼・小・中学校

地引き網体験



地味教育委員会 13

## 取材校 と 活動内容

鷹巣 幼・小・中学校

ボランティアで海鮮鍋ゲット



地味教育委員会 14

## 粟 幼・小・中学校 地引き網体験



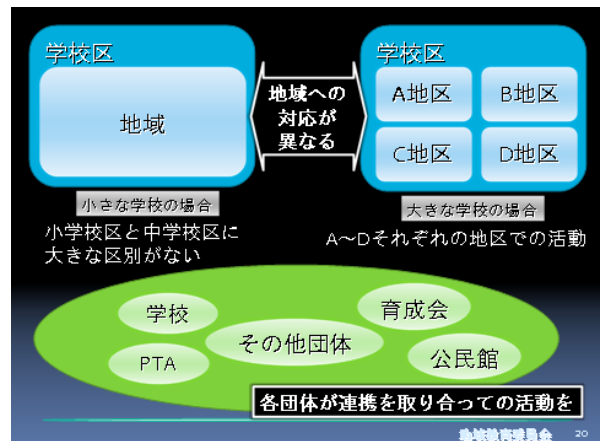
## 鷹巣 幼・小・中学校 ボランティアで海鮮鍋ゲット



## 活動を通しての感想と提案

- 各学校のおかれている環境により活動状況は大きく異なる
- 地域特性のためと思われるが小さい学校の方が地域密着性が高い
- 多数の小学校が傘下にある中学校は地域認識が少ない？

- ◆ 苦勞と喜びを共有できる活動が心に残るのでは
- ◆ 地域への密着度が高くなれば見守り隊などもスムーズになる



## 今後の活動について

- 単年度のみでの活動では十分なことができない
- 新旧の委員会引き継ぎをスムーズに行うため
- 次年度へテーマのつながりについて

ご清聴ありがとうございました

## 【まとめ】

本年度の地域教育委員会は、市P連のメインテーマである「つながり」から活動テーマを「中学生の地域とのまじわり」とし、中学生がどのように交わっていけば地域教育力があがるのかを目標としました。

現状把握のため23の中学校へアンケート調査を行い、20校より回答を頂くことができました。アンケート結果からは、多くの学校で地域に対しての活動として、資源回収や清掃活動もしくは地区体育大会への参加

などが挙げられていました。そこで、この他の活動に中学生が参加している学校を視察しようということで、次の学校にお願いを致しました。①灯明寺中学校「サイクリング活動へのボランティア」②明倫中学校「PTA講演会」③進明中学校「美術部による自立支援活動への協力」です。また、3校以外にも地域へのまじわりが深いと思われる活動はないかと、①棗幼・小・中学校「地引網体験」②鷹巣幼・小・中学校「ボランティアで海鮮鍋ゲット」へも取材を行いました。

これらの学校を視察・取材し現状を把握することで、今後、私たちPTAがどのように関わり、子ども達とともに地域とのかかわりについてどのような活動をすれば良いのかを検討することにいたしました。

視察を終えて、各学校の置かれている環境により活動の状況が大きく異なっていると思われま。Eブロックの各校は地域とかなり密着した活動を行っており、他のブロックについてはやや密着度合は薄いように思われました。これは1～2校の小学校から集まった中学校と、多数の小学校から集まった中学校とで、自分たちの地域もしくは地区といったものと中学校区とが同一であるか異なるかによるものが大きく関与しているように感じられます。

また、いずれの活動も学校単体やPTA単体での活動ではなく、公民館を含む多数の団体が協力しあつての活動となっています。そこで提案ですが、中学校区として考えた場合、大きな学校の場合には範囲が広すぎて活動に限界があると思われま。学区ではなく公民館や育成会、またボランティア団体などと連携を行い、各小学校単位でもよいので、中学生が地域の中に入れるような活動を取り入れてはいかがでしょうか。棗幼小中学校や、国見中学校では、このような地域に密着した活動を行なったことにより“地域の見守り隊”がスムーズに出来たとのことです。

以上の活動を通して、今後の課題として、単Pの役員が多くは単年度での活動であるために十分な動きや引継ぎができていないのではないかと感じられていることです。次年度への引き継ぎをしっかりとし、年度が変わってもつながりのあるテーマで活動ができればより良い活動ができるのではないかとと思われま。

最後に今後の運営について多少とも参考にさせていただければ幸いです。





## 少人数学級・少人数指導について

### 【アンケート結果報告】

### 少人数学級に関する アンケート結果



福井市PTA連合会  
学校教育委員会

### アンケートの目的

- 今年度の取り組みテーマは「つながり」
- 家庭と学校、家庭と地域、地域と学校をつなぐを強める事で、子どもの安全安心な生活環境を確保
- 県が推進する少人数学級に関する保護者のニーズを把握
- 今後のPTA活動等に反映

### 少人数学級とは？

| 1学年の人数  | 40人学級制 | 少人数学級制    |
|---------|--------|-----------|
| 38人の場合  | 38人の1組 | 19人の2組    |
| 80人の場合  | 40人の2組 | 26～27人の3組 |
| 140人の場合 | 35人の4組 | 28人の5組    |

### 県の取り組み状況

| 学年    | H16年度 | 現在(H20) |
|-------|-------|---------|
| 小学1～4 | 40人   | 40人     |
| 小学5   | 40人   | 36人     |
| 小学6   | 39人   | 36人     |
| 中学1   | 37人   | 30人     |
| 中学2   | 39人   | 35人     |
| 中学3   | 39人   | 35人     |

※ 小学1、2年は低学年生活支援員(補助教員)が付いて指導

### アンケートの内容

- 問1 少人数学級についてご存じですか？
- 問2 少人数学級の実施についてどのようにお考えですか？
- 問3 問2で賛成の方は、その理由？
- 問4 問2で反対の方は、その理由？
- 問5 学級編成の人数は、何人位が適当か？
- 問6 少人数学級化により、「つながり」が強まり、教育上の効果が得られるか？

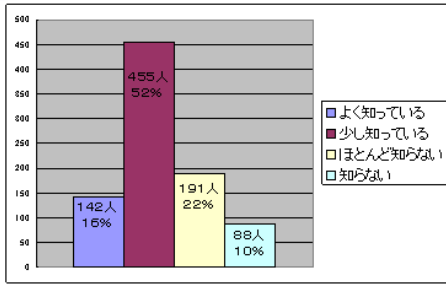
### 【アンケートの目的について】

市P連の今年度の取り組みテーマは、「つながり」です。県が推進している少人数学級制が「つながり」を強める施策の一つではないかと思い、アンケートという形で保護者の方々にご意見をお伺いした上で、今後の活動に役立てたいと考えました。

調査範囲は、集計等の事務量や時間的な負担を考え、保護者の方々のニーズがある程度把握できる対象として、1,000名程度で実施させていただくこととし、実施方法について委員会で諮ったところ、光陽中学校、足羽第一中学校、日之出小学校の各単P会長が前向きに捉えて下さいましたのでお願いする運びとなり、3校約1,100名の保護者の方々を対象とし、結果875名の方から回答を得ることができました。

### 問1

#### 少人数学級についてご存じですか？

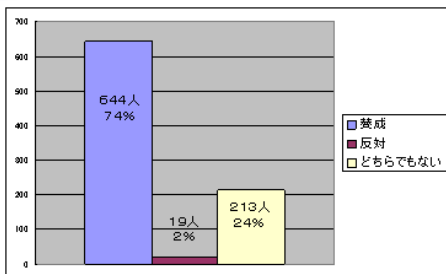


### 【考察】

30人学級について、「よく知っている」、「少し知っている」を合計すると68%にも達することから、県が推進している少人数学級化の取組が保護者の方々に浸透しつつあることが分かりました。

### 問2

#### 少人数学級の実施について

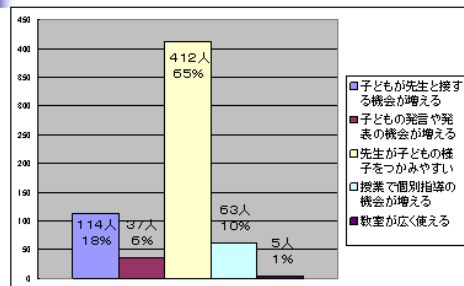


### 【考察】

30人学級の実施について、「賛成」の比率が70%以上であることから、少人数学級化の取り組みは大多数の保護者の方々に支持されていることが分かりました。

### 問3

#### 賛成の理由は？



### 【考察】

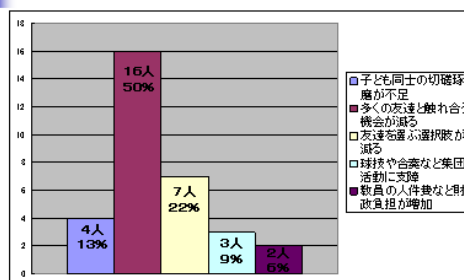
30人学級の実施について、「賛成」された方の内、65%の方々が、「先生が子どもの様子をつかみやすい」ということを理由に上げられています。

### 【参考】

その他賛成の理由として、「子ども同士がコミュニケーションをとりやすく、クラスがまとまる」、「先生の負担が減る」、「子どもが授業に集中できる」などのことが述べられていました。

### 問4

#### 反対の理由は？



### 【考察】

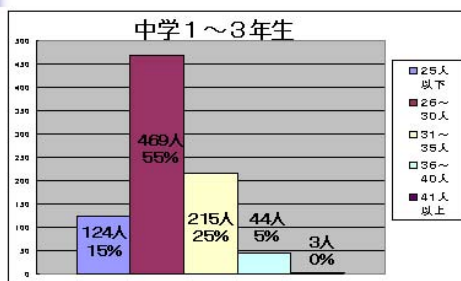
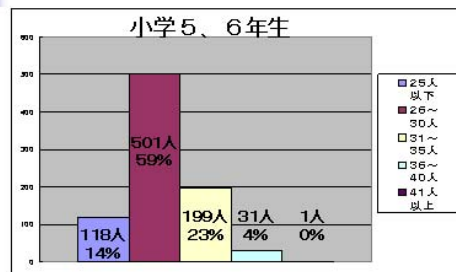
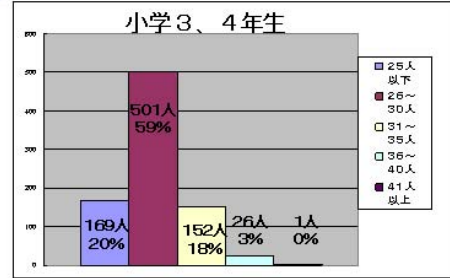
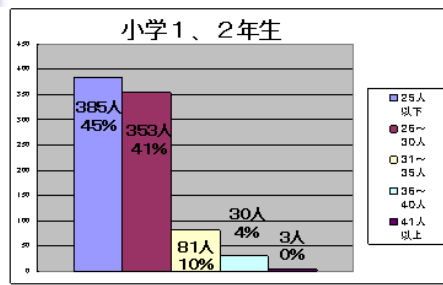
30人学級の実施について、「反対」されている方々は少数のようですが、その内半数の方々が、「多くの友達と触れ合う機会が減る」ということを反対の理由に上げられています。

### 【参考】

その他反対の理由として、「先生を増やすため不適任な人まで採用されそう」、「子どもたちの間で派閥が強くなる気がする」、「学校では友達の輪を広げ、多くの人間関係を学んで欲しい」などのことが述べられていました。

## 問5

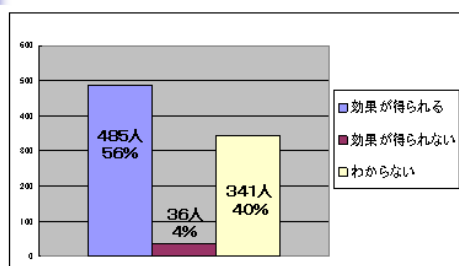
1学級は何人位が適当ですか？



### 【考察】

1学級の人数については、やはり少人数学級化を求める保護者の声が如実に表れており、各学年ともに35人以下が適当だと考えておられる方が大多数を占めています。

問6 少人数学級が「つながり」を強め、効果が得られますか？



### 【考察】

30人学級の実現により、先生と保護者及び子どもとのつながりが強まり、教育上の効果が得られると思う方が56%と過半数おられましたが、効果が得られるかどうかわからないという方も40%おられました。

### 【参考】

わからない理由としては、「人数より、先生と保護者、先生と子どもの歩み寄りが必要」、「全ての関係で、同じ結果にはならないと思う」、「つながりは、子どもや親のシグナルを先生が活かす必要がある」などのことが述べられていました。

## ■ その他、主なご意見

昔に比べて先生と子どものかかわりが希薄になっているように思います。有意義な学校生活が送れるよう「つながり」を大切にして、サポートをお願いします。

人数が少ない方がいいのか、多い方がいいのかは、子供達が一番分かっている。子供達にアンケートをしては？

子どもの人数を少なくするより、1学級につき1,5~2人の先生をつけて、より細かい指導があれば良い。

少人数学級になっても学費が上がらないのなら賛成。

生徒数を減らしたところで、先生の仕事(雑務等)を減らさなければ、本当に向き合うことは不可能だと思います。

少人数制は、一人ひとりに目が届き、その子にあった指導ができると思います。反面、子ども同士のつながりが少なくなるのではとも思います。それらを踏まえて、今後、少人数学級のことを考えていきたい。



## 【少人数学級の現状、メリット・デメリット、今後の展望など】

福井市足羽第一中学校 校長 辻 清貴 氏

現在、本校の1年生は、126名が在籍しており、学級数は全部で5クラスで、1クラス25～26名です。これが、国の法律に沿った学級編制ならば、1クラス31～32名の4クラスになってしまいます。

メリットという点においては、主に以下のことがあげられます。

1. 生徒一人一人に目が行き届く。きめ細かい指導が行える。
2. 学級生徒全員が一カ所に集まって実物や実験を見学したりする場合も行いやすい。
3. 生徒とのコミュニケーションや保護者との懇談時間も長くとれる。
4. 教室が広く使える。（1教室を34名で使っている2年生教室は大変狭く感じる）

これ以外にも、教室のロッカーに余裕がある、生徒達の書いた生活ノートもじっくり読むことができるなど沢山の良い点があげられると思います。

また、デメリットというほどのことは特になくはないと思いますが、クラスでグループ学習やペア学習を行った時に、人数が少ない故に意見が広がりがないことがあったりします。

このようなメリットを活用し、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送ることができるように取り組んでいきたいと思っています。

福井市教育委員会 学校教育課 指導主事 道上賢一 氏

### 福井市PTA研究大会

## 少人数学級の現状について

— 福井市の状況 —

### 新笑顔プランによる福井市の学級増の状況

(平成20年度)

小学校

5年生 5学級増(学級定員 36人)

6年生 7学級増(学級定員 36人)

中学校

1年生 19学級増(学級定員 30人)

2年生 7学級増(学級定員 35人)

3年生 8学級増(学級定員 35人)

### 少人数指導、TTによる指導の現状

(平成20年度)

ア 少人数加配

小学校 37人 中学校 17人 計54人

イ TT加配

小学校 21人 中学校 10人 計31人

### 少人数指導における学習集団の分け方

#### 1 学習集団の分け方

ア 学習内容の習熟の程度に応じて分ける

イ 学習内容の習熟の程度に関わりなく分ける

#### 2 実施教科

小学校 3～6年生の国語、算数、理科

中学校 1～3年生の数学、理科、英語

## まとめ

### 〈少人数学級の効果〉

- ア 教員が児童生徒の学習や生活の状況を把握しやすくなる。
- イ 一人ひとりの児童生徒に対するきめ細かな指導が可能になる。
- ウ 一人ひとりの児童生徒の活躍の機会が増える。

有利になった条件を生かした授業づくりや子どもへの対応に取り組むこと

の学習状況を把握しやすくなることや一人ひとりに対するきめ細かな指導ができること、そして、子どもたちにとっては一人ひとりの活躍の機会が増えるといったことが挙げられる。大切なことは、少人数学級によって有利になった条件を生かした授業づくりや子どもたちへの対応に、学校や教員が努めていくことだと考えている。

少人数指導やT Tによる指導には、一人ひとりに応じた丁寧な指導ができる等の良さがある。課題として、指導効果を高めるために必要となる担当者の事前打ち合わせのための時間確保ということがある。

少人数指導にあたっての学習集団の分け方としては、①学習内容の習熟度に応じて分ける方法と、②学習内容の習熟度に関わりなく子どもたちの希望によって分ける方法、等がある。

少人数学級の効果としては、教員が子どもたち

福井県教育庁義務教育課 主任 前田洋一 氏

## 元気福井っ子

## 新笑顔プラン

県教育庁 義務教育課 前田洋一  
福井市P T A研究大会 2008.12.13

### 学級編制するためには・・・

公立義務教育諸学校の学級編制及び  
教職員定数の標準に関する法律=(標準法)

国の基準=1学級当たり40人

都道府県の教育委員会はこの基準を下回る数を  
基準とすることができる (同法第3条2)

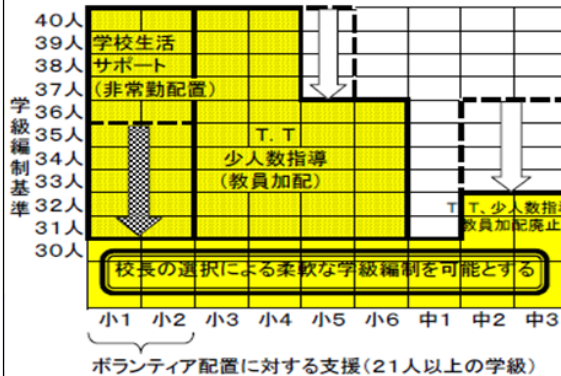
### 元気福井っ子

### 新笑顔プラン

### 元気福井っ子 新笑顔プラン

| 区分  | 内容                                                                                                           | 着眼点                                                       |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 小学校 | 1・2年<br>・学級編制基準 40人 (これまでの学級編制基準を維持)<br>・非常勤講師配置基準 36人以上 → 31人以上 (H23までに実施)<br>H20 35人以上、H21 34人以上、H22 33人以上 | 社会生活上のルール指導<br>(学校生活支援を強化)                                |
|     | 3・4年<br>・学級編制基準 40人 (これまでの学級編制基準を維持)<br>・ボランティア導入に対する支援 (21人以上の学級)                                           | T、T、<br>少人数指導<br>の実施                                      |
|     | 5・6年<br>・学級編制基準 40人<br>5年: 40人 → 36人 (H20に実施)<br>6年: 36人 (これまでの学級編制基準を維持)                                    | 生活指導から<br>学習指導へ<br>学力向上のための<br>教科指導の充実<br>(スムーズな学年<br>進行) |
| 中学校 | 1年<br>・学級編制基準 30人 (これまでの学級編制基準を維持)                                                                           | 学力の向上および<br>不登校等の未然防<br>止                                 |
|     | 2・3年<br>・学級編制基準 36人 → 32人 (H23までに実施)<br>H20 35人、H21 34人、H22 33人                                              | 学習・進路・生徒<br>指導等の充実<br>(生徒と向き合う<br>時間を拡充)                  |

### ○ 新プラン【平成23年度(最終形)】



# 元気福井っ子 新笑顔プラン

平成20年度当初予算額

3,441,534千円

国庫 694,826千円

一般 2,746,708千円

**児童・生徒一人当たり 48,600円**

平成20年度 福井県当初予算より

## 標準法と新笑顔プランでの 学級数の比較

|        | 小学校   | 中学校  |
|--------|-------|------|
| 標準法    | 1,943 | 804  |
| 新笑顔プラン | 1,992 | 920  |
| 増減     | 49増   | 116増 |

## 小学校 平成20年度 1学級あたりの児童数

平成20年度文部科学省学校基本調査より

ボランティア配置に対する支援  
(21人以上の学級)

| 学年         | 1年生   | 2年生   | 3年生   | 4年生   | 5年生   | 6年生   | 全児童数   |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 児童数        | 7,706 | 7,564 | 7,609 | 7,889 | 7,716 | 8,062 | 46,546 |
| 学級数        | 292   | 288   | 277   | 281   | 305   | 318   | 1,761  |
| 1学級あたりの児童数 | 26.4  | 26.3  | 27.5  | 28.1  | 25.3  | 25.4  | 26.4   |

低学年生活サポート  
(35人以上の学級)

IT少人数加配  
(31人以上の学級)

## 中学校 平成20年度 1学級あたりの生徒数

平成20年度文部科学省学校基本調査より

| 学年         | 1年生   | 2年生   | 3年生   | 全生徒数   |
|------------|-------|-------|-------|--------|
| 生徒数        | 7,981 | 8,277 | 8,080 | 24,338 |
| 学級数        | 304   | 273   | 275   | 852    |
| 1学級あたりの生徒数 | 26.3  | 30.3  | 29.4  | 28.6   |

IT少人数加配  
(31人以上の学級)

## 平成20年度 教員1人あたりの児童・生徒数

| 小学校   | 中学校   |
|-------|-------|
| 14.9人 | 12.9人 |

平成20年度文部科学省学校基本調査より

## 児童生徒1人当たりの経費 (年額)

|    | 小学校       | 中学校       |
|----|-----------|-----------|
| 全国 | 889,415   | 1,033,952 |
| 福井 | 1,003,913 | 996,612   |

平成19年度 文部科学省  
地方教育費調査(平成18会計年度)より

## 平成20年度 全国学力調査・学力状況調査

<小学校>

|     | 国語A  | 国語B  | 数学A  | 数学B  |
|-----|------|------|------|------|
| 福井県 | 70.5 | 57.5 | 78.3 | 56.5 |
| 全国  | 65.4 | 50.5 | 72.2 | 51.6 |

<中学校>

|     | 国語A  | 国語B  | 数学A  | 数学B  |
|-----|------|------|------|------|
| 福井県 | 78.4 | 67.3 | 72.1 | 58.5 |
| 全国  | 73.6 | 60.8 | 63.1 | 49.2 |



学級編制の国の基準は、1学級あたり40人ですが、各県において40人を下回ることも可能です。本県の策定している「元気福井っ子 新笑顔プラン」は、平成23年度まで決定しています。これは国の補助もいただいております、児童生徒一人あたりにかかる費用は48,600円（平成20年度）となっています。

また、学級数の比較においても、中学校においては大幅な学級数増となっています。

平成20年度の全国学力調査・学力状況調査において本県は、すべての教科において全国の平均を上回る結果となっています。

## 【意見交換】

**Q 市P連・大島：**福井市のいきいきサポーターは、人材確保が大変なのだと聞きましたが、学校現場では本当に必要なのでしょうか。ある先生に聞いてみますと「クラスの子どもの人数を減らすよりも、教員や支援員を増やすほうがよい」とか、ある親に聞いてみると「支援員によっては、子どもの扱いが雑だ」というようなプラスやマイナスの意見が聞かれます。学校現場ではどうなのでしょう。…



**A：**教育・地域サポーターは多ければ多いほど、きめ細かな指導ができると考えます。小学校の場合、校外にでる機会が多く、サポーターの方々にきてもらえると助かる。特別支援学級のサポート、通常学級で授業についてこれない生徒のサポート、授業に出れない（出てこれない）生徒のサポートがある。サポートの仕方にも差があるため、支援員の教育に取り組んでいる。人材確保がなかなか大変であるのが現状。研修会も開催し、学校との密なる連携が大切と考えている。

**Q 市P連・海道：**10年前まで複式学級は2～3校だったのが、今では9校にもなりました。教育長さんの話によりますと、普通学級と複式学級に差がでないような指導法をやっていますとのことですが、具体的にどのようなにしているのでしょうか。私たちから見れば、授業時間が半分になってしまうように思うのですが…。



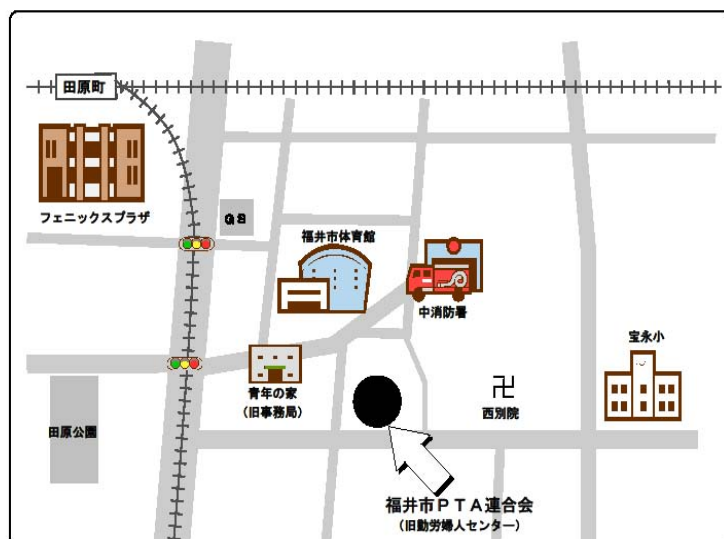
**A：**自習時間が長くなるので自主性が育ちやすいです。

**Q 会場より：**小子化によって一人当たりの教育費が上がったはずであるが、少人数学級の完全実施が実現できていないのはなぜか。まずは実現することでは…。



それからリスク・デメリットの解消に努めるべきと考えるが…。  
**A：**承知しているが、教員配置、研修等々お金のかかる問題であり、早急な実現には県民の後押しも必要である。





## 福井市PTA連合会

〒910-0003 福井市松本4丁目8-4

TEL 26-4058

FAX 26-4358

E-mail: fcpta@mx4.fctv.ne.jp

ホームページ <http://www4.fctv.ne.jp/~fcpta/>